



進学先

京都大学

工学部

河野 新汰さん

向陽高校

インタビュアー

岡 哲司

(ACターミナル校カウンセリングスタッフ)

合格発表の瞬間は、どんな感じでしたか？

河野: 京都に行っている途中でスマホで確認しました。発表自体は掲示場での掲示は無くWebのみなんですけど。その日に、好きな京大生YouTuberが来ることになっていたのので会いに行こうと思って友だちと京都に向かっているとこでした(笑)。

受験勉強をしながら京大に行けそうと実感した瞬間はあった？

河野: 最初の京大模試を受けた時にC判定ぐらいあるといいなと思ってたら、返ってきたらA判定で。あれ！？ってなって(笑)。でもまだその時は不安もあったんですけど。高3の秋の京大模試もA判定で。理工化学科はどうなっても落ちないという感じにはなっていました。情報学科のボーダーは、可能な点ではあるけど微妙かなって思っていました。

東大か京大か悩んでいた時期もあったけど、京大に決めた理由は？

河野: 京大生YouTuberを見て"京大いいかも"ってなったのと、あとは入試問題の形式です。数学もその時は"東大はきついけど京大はいけそう"って思ったので。小問じゃなくて1個どんって出るのが好きで。あと英語も東大はやること多いけど京大は和訳と英作なので。東大はスピードを求められて京大は正確さ。僕はスピードより正確さの方が自信があったから。それで高1の終わりには京大しか言っていなかったと思います。高2の夏には京大模試も受けました。

工学部を目指すようになったのはいつ？

河野: 京大って決めてもう変えないってなった時に理学部か工学部かなって思って。でも京大の理学部は極めたい人が多いイメージで、工学部だったら僕みたいな人たちがいるかなっていう感じで消去法的にすぐに決まりました。学科は、合格最低点が一番高いからって理由で最初は情報学科にしていました。

高1で東大京大を目指したきっかけは？

河野: アカデミーに通い始めて、先生に「東大京大を目指したら？」って言ってもらったからです。正直、それまでは東大京大を目指せる身ではないと思っていて。中学卒業時点では阪大って言ってたので。学校の先生に「中学卒業のタイミングで志望大学の過去問を買ったらいいぞ」って言われた時に、阪大のものを買っていたくらい。阪大って言っていたのも、GES卒の先輩が向陽環境科学科から阪大に行ったっていうのを聞いて"あ、向陽から阪大行けるんや"って思ったから。あと、その時は阪大出身のYouTuberが好きだった(笑)。たぶんそれが1番大きかった。でも、アカデミーで高1の時に志望校を聞かれて阪大って答えたら「東大京大は？」って言ってもらったから「じゃあ、東大で」って(笑)。そこで東大京大を目指したのがよかったと思います。

試験の後、発表までの間、手応えはあった？

河野： 共テは1日目の文系が終わった後はヤバいなと思いました。国語は、ほぼ適当に選んだ感じだったので(笑)リーディングも曖昧だったし。だから1日目の不安が残った状態で受けた2日目は緊張しました。2日目の理系科目は一切過去問を解かずに学校のパックのみだったので、1年分ぐらいやっておけばよかったと若干後悔しながら。数学ⅠAは、初めは各大問の最後だけ全部解けなくて。でも時間が余ったから、後ろからもう1回戻ったら解けました。その後、ⅡBからは落ち着いてできました。結果的には1日目の文系もとれてたんですけど。国語も"なんとなく"で選んだのが全部正解で。それから二次の前までは、不安や緊張はなくて"早く終わってほしい"としか思ってなかったです。

二次の時は、1日目が終わった時は絶望。1日目のラストの数学を受けて、情報学科はきつくなって。でも、頭の中でシミュレーションしたら理工化学科ならまだいけるって思って。それで持ち直して2日目に臨んだら英語が絶好調。理科もまあできたので、2日目が終わった時は"理工化学科は絶対に受かって情報学科は3割ぐらいいけるかな"って感じでした。でも結果、理科が想定よりできてなくて、それで情報学科に行けなかったみたいで。数学は自己採点では2問完答、2問半分。そもそも難化でみんなできてなかったらしいです。

各教科の勉強内容や、使っていた参考書は？

河野： 高1は英単語。堀端(東大合格)も「アカデミーのインタビューで"英単語頑張りました"って言った"っていうのを聞きました(笑)。いや、でも本当に高1で英単語をやっていたら絶対に負けることはないと思うので。僕の場合は、学校の宿題のペースとかはガン無視で。最初は学校で渡された1年間で仕上げる単語帳を夏休み前に終わらせて。で、次の単語帳を高1の間にずっと回していました。

数学は、どちらかというと高2に伸びたと思います。数学の問題集でよかったのは『1対1(1対1対応の演習/東京出版)』。買ったのは高1の夏休みなんですけどしばらく置いておいて、ちゃんとやり始めたのは高1が終わった春休み。高1の終わりにⅠA、高2の夏休みにⅡB。基本の演習が終わったら『1対1』をやるって

形で。合わないって人もいたんですけど、僕はそんなにしんどくもなく問題の種類も豊富ってところが合っていました。

化学は、高2の時にサテラインで亀田先生の化学。それを1年間で終わらせたくらいかな。あれで知識がかなり入ったと思います。高3は『重問(化学の重要問題集/数研出版)』と、『ハイレベル化学(代ゼミ)』のテキスト。

物理は、先取りで自分で進めて、学校から『リードα(数研出版)』が配られたタイミングで自分でそれをやって。その後に『重問(物理の重要問題集/数研出版)』と、並行して『ハイレベル物理問題演習(代ゼミ)』。この2冊をやってから過去問を解いて、最後は『漆原の解法研究(難関大入試 漆原晃の物理[物理基礎・物理]解法研究/KADOKAWA)』を解きました。

勉強がしんどくなる時期はあった？

河野： 不定期に勉強が嫌になることがありました。無気力って感じが年に2回くらい。3年間毎年。その間は何もしなかったです。1、2週間。大体定期テスト前に発症し始めて、定期テストが終わった瞬間に回復するっていう。でもまあ回復するので。

ACクラスライブの授業はどうだった？

河野： 数学と英語はアカデミーのおかげで伸びたなって思います。あと古文。古文は塾で受けて、高2でめっちゃ伸びたなって思います。高2の終わりには得意になったくらいで。授業が面白かったのがすごくよかった。チェックテストをやっているうちに覚えていけたし。

吉田先生の英語の授業は、ただの暗記じゃなくて。なぜこういう意味になるのかっていうのを説明してくれていて、それは参考書とかにはあんまり書いていないことだからよかったです。そのおかげですぐに覚えられて忘れることが無かった。高2になったら和訳とかが入ってきて、和訳の楽しさを教えてもらったと思います。

あと、高2からは毎日アカデミーに来てました。勉強しなければならなくて感じではなくて、普通の生活って感じで毎日自習室に来て。それがしんどいともなくて普通に。高2は数学中心に進めていたかな。塾で勉強して、家では特にしていなかったです。

大学に入ってからやりたいと考えていることは？

河野： サークルには入ろうかなと思っています。サッカーとか野球とか。あと、大学院には行くと思います。9割ぐらいの人が行くみたいだし。

頑張っている後輩にメッセージをお願いします。

河野： 高1高2は、遊びに誘われたら全部行くぐらいでもいいと思う。高3になると受験でその誘いが無くなるので。高1高2のうちに行っておいたら後悔はないかと。勉強面では、実践的な話なんですけど、過去問をやった後に直しをするのはもちろんとして、その類題を問題集で解く。それが大事なかな。理科は絶対にそうしていました。



編集後記 ~インタビューを終えて~



河野君の京大現役合格は、まさに「努力の賜物」だったと思います。高2の頃から顔を合わさない日がないくらい毎日自習室に籠って勉強をしていました。コツコツと、基本から徹底的に積み上げた結果が、合格に繋がったと思います。また、綿密に計画を立て、それを実行する、その意思の強さと実行力も素晴らしいと思いました。

高3夏の京大プレでもA判定でしたが、その結果に満足することなく、受験を恐れて最後まで努力し続けました。恐らく、この学年で一番勉強時間が多かった生徒だと思います。

将来のビジョンはまだ明確ではないそうですが、河野君であれば、大学生になってもコツコツと努力を積み重ね、いつか見つかるであろう道で、必ず成功するだろうと確信しています。

河野君、合格本当におめでとう！3年間の努力、本当に素晴らしかったです。

今後の活躍を楽しみにしています。

ACターミナル校カウンセリングスタッフ 岡 哲司

